

研究代表者氏名	奥山 明彦			研究組織	3人	
所属機関・部局・職	大阪大学 医学系研究科 教授			所属機関所在地	吹田市	
研究課題名	移植腎への HGF 遺伝子導入の臨床研究					
研究の概要等	<p>目的</p> <p>維持透析患者を減らし、1兆円以上といわれる維持透析にかかる医療費を削減する</p> <p>3年後、20年間維持できる移植腎を目指す</p> <p>維持透析導入年齢は平均60歳であるが、60歳の腎不全患者が透析に頼ることなく80歳まで過ごすことができる治療法を確立する</p> <p>研究計画</p> <p>()ブタ移植腎への HGF 遺伝子導入の安全性試験</p> <p>申請者らは既に 1)ラット慢性拒絶反応・腎線維化モデルにおいて、移植後短期間の HGF 投与が移植腎の長期生着を可能にしたこと (J Am Soc Nephrol: 12:1280-1293, 2001)、2)ラットの 5/6 腎摘・腎線維化モデルにおいて、electroporation 法による筋肉内への HGF 遺伝子導入によって腎の長期生着を可能にしたことを証明した (J Am Soc Transplant: 2: 828-836, 2002)。また、ブタの片腎のみを自家腎移植し、同時に移植腎への electroporation 法による HGF 遺伝子導入によって移植腎内において HGF が過剰に発現していることを確認した(論文作成中)。しかし臨床で同様の試みを行う前に、長期間にわたって HGF 血中濃度が高値を持続することがないこと、あるいは腎および他の臓器への影響がないことを確認する必要がある。そこで本実験では、HGF を導入したブタを6カ月間飼育し、経時的に屠殺し、血液検査によって異常検査値がないこと、および病理診断によって各臓器の異常がないことを確認する。</p> <p>()腎移植の臨床での HGF 遺伝子筋肉内導入試験</p> <p>腎移植の手術時に同時に HGF 遺伝子の移植腎への導入を行い、有効性と安全性を検討する。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書 (研究代表者のみ)	<p>H. Azuma, S. Takahara, K. Matsumoto, N. Ichimaru, J. D. Wang, T. Moriyama, A. Wega, M. Kitamura, Y. Otsuki, A. Okuyama, Y. Katsuoka, A. Chandraker, M. Sayegh and T. Nakamura, Hepatocyte growth factor prevents development of chronic allograft nephropathy in rats, J Am Soc Nephrol 12: 1280-1292, 2001</p> <p>T. Tanaka, N. Ichimaru, S. Takahara, K. Yazawa, M. Hatori, K. Suzuki, Y. Isaka, T. Moriyama, E. Imai, T. Nakamura, A. Okuyama and H. Yamanaka, In vivo gene transfer of hepatocyte growth factor to skeletal muscle prevents changes in rat kidneys after 5/6 nephrectomy, Am J Transplantation 2: 828-836, 2002</p>					
研究期間	平成15年度～17年度(3年間)					
研究経費	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	合計
(16年度以降は内約額)	千円 7,600	千円 22,500	千円 22,500	千円	千円	千円 52,600
ホームページアドレス	http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/uro/www/uro.htm					